

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

AA 研共同利用・共同研究課題「ユーラシア諸言語における談話の文法」(jrp000296)
2024 年度第 1 回研究会

日時：2024 年 7 月 13 日（土）11:00–19:30

場所：本郷サテライト 4F セミナールーム

使用言語：日本語

11:00–12:00 課題打ち合わせ (1)

13:00–17:00 研究会

13:00–13:30 児倉 徳和（AA 研所員）趣旨説明

13:40–15:00 菱山 湧人（AA 研共同研究員、日本学術振興会特別研究員;新潟大学）

「チュヴァシ語の 2 人称複数代名詞と 2 人称単数所有接辞が共起する所有名詞句—数と待遇の観点からの分析—」

15:10–16:30 大崎 紀子（AA 研共同研究員、京都大学羽田記念館）「キルギス語の助動詞 *ele* と助詞 *ele* —談話レベルの「従属文化」は可能か—」

16:30–17:00 全員 総合討論

17:15–19:30 課題打ち合わせ (2)

今回の研究会では、2 件の研究発表と討論、および課題の趣旨説明を目的とした打ち合わせを行った。打ち合わせは海外在住の共同研究員の時差を考慮し、午前と午後の 2 回に分けて行った。

菱山 湧人（日本学術振興会特別研究員;新潟大学）「チュヴァシ語の 2 人称複数代名詞と 2 人称単数所有接辞が共起する所有名詞句—数と待遇の観点からの分析—」

チュヴァシ語（チュルク諸語オグル語群）の 2 人称複数代名詞 *esir* は、2 人称単数の敬称「あなた」も表わしうる。属格形 *sirën* は 2 人称複数所有接辞 *-Är* が付加した、もしくは付加していない名詞と共に所有名詞句を構成しうる（例：*sirën ann-är* / *anne* 「君た

ち／あなた方／あなたの母」)。しかし、まれに 2 人称単数所有接辞 -U が付加した名詞と共起することがある（例：sirën ann-ü）。本発表では、2 人称複数代名詞と 2 人称単数所有接辞が共起する所有名詞句をコーパスから抽出し、文脈を参照して、所有者の数および待遇の観点から分析した。そして抽出された 14 例を分析した結果、次のような特徴があることが示唆された。1) 親しい単数の所有者に対しては使われない、2) 所有者に対する話し手の敬度が著しく高い場合には使われない、3) それら以外の場合（複数の所有者や、親しくない単数の所有者に対する話し手の敬度が高くない場合）にまれに用いられる。

大崎 紀子（京都大学大学院文学研究科附属羽田記念館）「キルギス語の助動詞 *ele* と助詞の *ele* — 談話における「従属文化」は可能か —

不完全動詞（不規則かつ不完全な活用をする、単独では用いられない動詞）*e-* の過去形 *edi* ～ *idi* は、チュルク諸語でコピュラ動詞または助動詞として広く用いられている。キルギス語では、不完全動詞 *e-* の過去形 *ele* が、過去時制の名詞述語文や形容詞述語文を作るときに用いられるほか、動詞述語にも後続して「複雑な時制を表す」（Turusunov & Oruzbaeva 1987: 277）と言われている。過去時制の動詞述語に後続する場合は「遠い過去の意味合いを加え」（Muratalieva 1987: 258）、とくに -DI 過去形に *ele* が続くと「その動作の効果や結果が生じなかった、またはその結果に対する疑念を表す」（Yudaxin 1965: 947）と記述されている。

本発表では、次の 2 つの問題を提起して議論を行った。

- ① *ele* には、異なる韻律を持つ *ele* があるが、この *ele* は何か？
- ② 一定の動詞活用形に後続する場合は、助動詞の *ele* と助詞の *ele* が形態上区別できないが、異なる韻律を持つ *ele* は助動詞か、助詞か？

子ども向けの童話やおとぎ話の音読版を収集して調査・観察した結果、次のような可能性を指摘できることを述べた。まず、①について、過去時制の動詞述語に後続する *ele* には、下降調で発音されるものと、イントネーションが加わって非下降調で発音されるものがあるが、後者には前後の文を接続する機能があり、主に逆接（転換や対比）の接続関係を表すと考えることができる。そして②について、少なくとも -DI 過去形に後続して、主に逆接関係の文接続機能を見せる *ele* は、助詞ではなく、助動詞だと見るべきである。

総合討論では、コーパスにおける用例について親疎など語用論的な分析をおこなうにあたって客観性をどのように担保するか、本研究課題の主題である「談話の文法」の研究の目的に適した談話データを採録する方法など、課題の初回の研究会にふさわしい、研究のデザインについての議論が行われた。

参考文献

- Muratalieva, Ĵ. (1987). Kategoriya nakloneniya. In Zaxarova, O. V. (ed.) *Grammatika kirgizskogo literaturnogo yazika 1: Fonetika i morfologiya*, pp. 257-272. Frunze: Ilim.
- Tursunov, Askar & Oruzbaeva, Bübüyna. (1987). Kategoriya vremeni. In Zaxarova, O. V. (ed.) *Grammatika kirgizskogo literaturnogo yazika 1: Fonetika i morfologiya*, pp. 272-294. Frunze: Ilim.
- Yudaxin, Konstantin Kuz'mič (1965). *Kirgizsko-Russkiy slovar'*. Moskva: Izdatel'stvo Sovetskaya enciklopediya.

以 上